

60億色の世界

ボクは、真っ白な世界で生まれた。
真っ白で生きていくつもりだった。

生きていく途中で、いろんな声を聞いた。

「それはだめです」「こんなことも出来ないの」
「バカ」「だれだれちゃんはこんなに賢いのに」

そんな声を聞くたびに、ボクの体は汚れていった。

ボクは、びっくりしてその汚れを落とそうとした。
もとの真っ白な自分にもどろうとした。

そうしていると、また声が聞こえた。

「そんな子供っぽいことして」「大人なんだから」
「そんなことして食べていけるはずないよ」
「定職にもついてないの」「いい加減ちゃんとしてよ」

そんなことをいう人は、きまってグレーの人だった。
そしていまのボクもまたグレーの人になっていた。

それが当たり前だと信じて。
それが「大人になること」だと思って。

ボクの目指す大人は、いつしか黒い人になった。
黒い人に近づけば、もう汚れる事はないと思った。
周りを見ても、みんな一緒に安心だった。

「大きい会社ですね」「お給料いくらですか」
「役職は何ですか」「お若いのに…」

そう言われる事で満足だった。
でもときおり、白い時を羨ましくおもった。
そんなボクは、モノクロの世界で生きていた。

子供は白、大人はグレー、老人は黒
それ以外はないモノクロの世界。

誰と比べても代わり映えのしない世界で
ボクは必死に「ボク」を生きていた。

でも、ある時ふと思ったのだ。

「中小企業に勤める企画とデザインができる
34才のボク」

これは本当にボクなのか？

この条件にあてはまるのは、本当にボクだけ
なのだろうか？

本当の「ボク」をどこに置いてきたのだろうか？
涙があふれてとまらなかった。

ボクは「ボク」を探す旅にでた。

でもこのモノクロの世界では、「ボク」を探することは出来なかった。

もう「ボク」なんてどこにもいないんだ。
そう、あきらめかけた時、そんな時

あなたに出会った。

あなたは言った。

「わたしは色弱で、見えないイロがあるんです。」

でも、あなたは言った。

「君には、君のイロがあるよ、描くべきキャンバスがあるんだよ。」

ボクは、まったく信じられなかった。
ボクはずっとグレーじゃないか。
その証拠に、ボクはボクを探す旅にも出たんだ。
周りもみんなグレーだし、この世の中は白か黒だ。

するとあなたは、ゆっくり微笑みながら

「自分は探すものでなく、磨くもの。そして描くもの。
そのために必要なものは、もうすべて目の前に
あるよ。そのことに今感謝しよう。そのすべてをねぎらおう。
君のイロはグレーじゃない。さあ、自分を磨いていこう」

ボクは、自分を磨くことにした。
そうすると自分のイロだと思っていた
グレーはただの汚れで、その汚れが
どんどん落ちていった。

汚れがおちたボクのイロは、いろんなイロがまざりあった
ボクだけのイロだった。

人の数だけイロがある、ここは60億色の世界だ。

そうして周りを見渡せば、誰一人同じイロの人は
いない。モノクロに見えていた世界はこんなに
鮮やかな世界だったんだ。

キモチにもイロがある事を知った。

感謝のイロ、愛のイロ、ねぎらいのイロ

それらのイロを重ね合わせ油絵のように
もりあがったボクは、それだけで
魅力あるように思える。

塗る途中、磨く途中の失敗も
それがあからこそボクだけのイロになる。

人のイロが少しづつ見えるようになってきて
この人のイロとあの人のイロが混ざり合うと
素敵なイロになるなあと思えるようになった。

人の数だけイロのある60億色の世界。

人の数だけ彩りが生まれる60億色の世界。

あなたは「人にはその人にしかないイロ」があることを教えてくれた。

ボクは思う。
あなたは「見えないイロがある」といったけれど
その分、人には見えない「人のイロ」が見えるのだと。

あなたに出会えたことでボクは
いま新しい世界に生きている。

60億色の世界。

その世界というキャンバスに
今日もボクは、ボクというイロで描く。

夢という作品を60億人分届けるために。

6 billion world of colour

60億色の世界。
6 billion world of colour

こんにちは、藤原です。
最後まで読んでいただき、ありがとうございます。
「60億色の世界」いかがだったでしょうか？

この文章は、もともと僕が大切な人に
メールで贈ったものでした。

その方は、とても感激してくれて
この文章をいつも鞆の中に入れて持ち歩いてくれました。

そして、ことあるごとに
自分の友人などに紹介してくれたのです。

そしてそれが広がって、僕のもとには
たくさんのメールが届くようになり
たくさんの人が会いたいと言ってくれるようになりました。

もともとは、純粹に出会った感動や感謝を
大切な人に伝えた、本当にそれだけのものでした。

自分にどういう形で感謝を伝えられるのか？
それを考えた時に、文章という形になっただけなのです。

きっと読んでいただいた皆様にも
いろんなイロがあると思います。

白や黒や透明ではなく、「あなたの想い」というイロで
描いた作品が、「あなた」であるはずなのです。

今、これからの人生
どうか自信をもって格好つけずに変に大人ぶらずに
歩いて行ってほしいと思います。

最後に、読んでいただいた感想を
たった一言、たった一行でも送っていただけると
とってもうれしいです。

下記フォームからどうぞ！
<http://my.formman.com/form/pc/qvx6381I2sKYeg5j/>

それでは、またどこかでお会いできるのを
楽しみにしています。
本当にありがとうございました。

追記：
最近はグレーな人も
グレートでいいなあと思うようになりました。（笑）